

紙リサイクルの今・昔

「紙リサイクル」の起源は、平安時代で^{きょうてん}経典を廃棄する際に、その^{きょうてん}経典を再利用したことが始まりといわれています。また、江戸時代には、「^{ほんこ}反故」といわれる古紙の集荷も行われていました。約束を破る「^{ほんこ}反故」の所以です。

現代では、紙リサイクルが注目されたのは、1960年代の急速な高度経済成長でした。大量生産、大量消費、大量廃棄によりもたらされたごみ問題と、紙・板紙需要拡大による原料確保・資源問題が発端でした。

さらに、1970年代に発生した石油危機は、石油の供給不安と物価高騰をもたらし、経済をパニックに^{おちい}陥らせました。これを契機にごみの減量化やリサイクルへの関心が一気に高まり、紙のリサイクルは再資源化や省エネルギー、さらには環境保護にもつながることから古紙の利用が注目され、その回収・利用が脚光を浴びるようになりました。

この1970年代はごみ問題が叫ばれ、ごみ全体に含まれる紙ごみの比率は約40%を占めていました。ごみ焼却炉の処理能力は限界に近づき、ごみの中の紙ごみを処理することは火急の課題でした。そこで、一般家庭・学校・企業・官公庁が、それぞれ紙リサイクル活動を推進して、紙の有効利用が進み、ごみの減量化に対応してきています。

紙リサイクルの輪

日本には、「紙リサイクルの輪」があります。日本では今、製紙原料の約6割以上を古紙が占めています。家庭から、オフィスから、工場からと古紙はさまざまなルートを経て集められ、製紙工場でも再生技術を飛躍的に進歩させ古紙を利用してきました。しかし、せっかく築いてきた「紙リサイクルの輪」も、私たち一人ひとりが参加しなければ、きちんと回っていきません。まだまだ捨てられている多くの紙を是非「リサイクルの輪」にのせていきましょう。

ステップ1 分別・回収

分別して回収することが
古紙の品質向上につながります。

古紙は、種類ごとにそれぞれ違う用途の紙に再生されるために、きちんと分別する必要があります。

ステップ2 流通

古紙は、さまざまな人がかかわり再生されます。

古紙は、家庭やオフィス以外にも、印刷・製本工場や新聞社などから裁ち落としや損紙・残紙などが、デパートやスーパーからは段ボールが大量に発生します。これらを専門業者が回収し、製紙工場へ搬送されます。古紙が集められ再生されるまでには、さまざまな人がかかわっています。

ステップ3 再生

古紙から適度な品質の紙を作ります。

品質を求めれば求めるほど古紙の利用が少なくなり、手間とコストがかかり、エネルギーが消費されます。大切なことは、用途によって適度な品質を求め、できるだけ多く古紙を利用した製品を使用することです。